

簡易計測の結果分析の手法と活用法(案)

STEP1

地域ごとに簡易計測による誤差を把握

STEP2

簡易計測により作成したNWDによるモニター調査

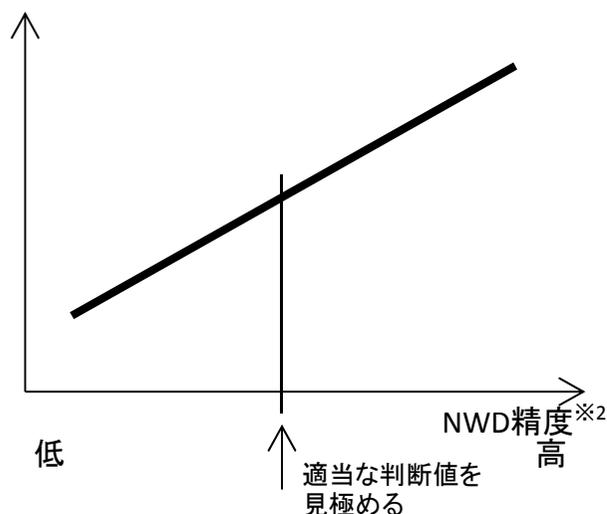
・一部の現地事業で採用されていた簡易計測をマニュアル化し、全地区で実施
 ・おおむね良好な精度(1/2,500地形図相当)が得られ、利用者アンケートでも問題がなかった。

今年度までの成果

STEP3

分析

サービス^{※1}毎
評価する利用者の比率



※1 サービスの分類

①経路誘導 <最低レベル> 歩道の上・下が分かればよい

↑↓ (いくつかのサービスレベルを設定)

<最高レベル> 点字ブロックの代替

②場所案内 <最低レベル> 多目的トイレ、昇降機の概略位置がわかる
(近くで気付けば十分)

↑↓ (いくつかのサービスレベルを設定)

<最高レベル> 建物の出入り口、手すりのついたスロープ位置が正確に分かる

比較的大きな誤差を許容

広い道

大きな誤差はダメ

せまい道

STEP4

マニュアルへ反映 または、参考技術資料の作成

①地区ごとに目指すべきサービス内容と簡易計測利用の関係を分類

②簡易計測を用いる場合でも、できるだけ精度を向上できる工夫を紹介